

受 験 番 号

国

語

(100点 60分)

(2024年度A－2)

注 意 事 項

- 試験開始の指示があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- この問題冊子の表紙の受験番号欄に受験番号を書いてください。
複数の受験番号がある場合、受験票に記載されているメイン受験番号を記入してください。
- この問題冊子は表紙を除き、16ページです。
- 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を高く挙げて監督者に知らせてください。
- 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、監督者の指示に従って、正しく記入してください。
 - 氏 名 欄 漢字氏名を記入してください。
 - 科 目 名 欄 「国語」と記入してください。
 - 受 験 番 号 欄 受験票に記載されているメイン受験番号を記入し、その下のマーク欄に、正しくマークしてください。
- 受験番号が正しく記入されていない場合は、採点されないことがあります。
- 解答は、解答用紙の解答マーク欄にマークしてください。
例えば

20

 と表示のある問いに対して㉓と解答する場合は、次の(例)のように20の解答マーク欄の㉓にマークしてください。

(例)

	解 答 マ ー ク 欄											
20	①	②	●	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫

- 問題冊子の余白等は適宜利用してもかまいませんが、どのページも切り離してはいけません。
- 不正行為について
 - 不正行為に対しては厳正に対処します。
 - 不正行為に見えるような行為が見受けられた場合は、監督者が注意します。
 - 不正行為を行った場合は、その時点で受験を取りやめさせ退室させます。

国

語

(
解答番号

1

3

32

)

第1問 次の文章を読んで、後の問い（問1～問11）に答えなさい。

¹ 信教の自由はなぜ保障されるべきなのか、保障される信教——宗教を信ずること——とは何なのか。

直感的にピンと来そうなのは、宗教は各人にとって自身の生きる意味、この宇宙の存在する意味を教えてくれるとても大切なものであり、だからこそ、各人の信教の自由を尊重すべきだという議論である。各人がそれぞれ本当に大切だと考えているものを尊重しない社会では、社会公共の利益のためにコウケン^aしようという志も生まれにくいであろう。社会の一体感を保持し、国全体の中長期的な将来へ向けて国民全体で協力しようとする環境を整える上でも、信教の自由を保障することは重要である。

筆者自身もこうした議論をしばしば提示してきた。² 近代立憲主義を支える主要な思想的基盤の一つということができそうである。ただ、これでもまだ十分な説明になっていないのではないかと疑問の余地はあり得る。というのも、この説明では、信仰の対象は各人が主観的に大切だと考えているだけで、それが客観的に見ても尊重に値する内容のものであることは、条件となっていないからである。（1）

宗教を含めた世界観が多面的であること、そうした世界観は往々にして相互に比較不能であり、いずれがより優れているかを客観的に評定することが意味をなさないことは、信教の自由が保障されるリベラル・デモクラシー諸国では広く認められていると言ってよいであろう。しかし、だからと言って、どのような信仰が大切かは、各人の主観的判断に任せるしかないというのでは、逆の極端に振れ過ぎてはいないだろうか。幼子を神への犠牲に捧げるべきだという信仰や、善と悪とが勝敗を決する世界最終戦争に備えて大量破壊兵器を製造・備蓄するだけでなく、それを一般市民に対して行使することも許されるという信仰など、およそ良識を備えた人であれば、誰が見ても奇怪^{おか}しい、尊重に値しないと思われる信仰は、たしかにあるように思われる。

そうした尊重に値しないことが明らかなのは除外した上で、残る数多くの信仰については各人の自律的判断に任せる、それが信教の自由を保障するということだ、ということになりそうである。政府がそれぞれの信仰の内容に立ち入って、これは善いがあればそれほどではない等と評価をし始めると、それこそ比較不能な世界観同士の激烈な対立に政府が巻き込まれ、社会の分断を^bマネク^cことになりかねない。

ただ、社会内の激烈な対立という深刻な害悪の発生を^cヨクシ^dする側面だけでなく、³ 信教の自由を保障することに積極的な便益を見出すことはできないであらうか。

表現の自由には、そうした積極的便益があると言われる。表現の自由が保障された社会では、政府の施策に対する批判が活発に展開されて民主的政治過程を下支えする、多種多様な思想や生き方が行き渡り寛容な社会意識を醸成する、各人がいかに生きるべきかについて多種多様なモデルが提供され自律的な生き方の選択を可能とする、さまざまな理論相互の拮抗^{きっこう}がより良い理論の発見につながる等々である。（2）

政府が個別の表現活動の中身に立ち入って統制しようとするより、表現活動を個人レベルまで民営化した方が、社会全体の公益がより効率的・効果的にもたらされるというわけである。もちろん、これらは因果関係が厳密に論証されているといった話ではないが——公営事業を民営化すれば資源配分が効率化するという因果関係も厳密に論証されているわけではない——少なくともそうした可能性を期待することには、十分な理由がありそうである。

信教の自由はどうか。困難があるのは、信教の自由の保障が積極的便益につながる——少なくともその可能性はある——と考えられそうな議論の筋道は、結局、表現の自由の保障根拠と重なりそうだという点である。多種多様な信仰が社会にモデルとして提示されることが自律的な生き方につながる、あるいは寛容な社会意識を醸成するということはあり得るだろうが、そうした結果をもたらすには表現の自由が保障されていれば十分ではないだろうか。

他方、政府の施策に対して信仰にもとづく批判が展開されることが、民主的政治過程を下支えすることにつながるか否かについては、見解が分かれるであろう。むしろ、信仰や世界観の間の抜き差しならぬ対立を社会全体の利益を理性的に判断すべき政治の世界に持ち込むべきではないという議論の方が説得力がありそうである。多様な信仰相互の拮抗がより善い信仰の発見につながるという議論は、そもそも（ ）によつてその可能性が閉ざされている。

信教の場合、カトリック教会に見られるような、独自の教団組織を維持しなければ信者の信仰心に継続的にコタ^dえることができないという指摘もあるかも知れないが、これも一般的な結社の自由の保障で用は足りそうである。

表現の自由や結社の自由とは区別され得る、信教の自由独自の（積極的）保障根拠は、どこに求められるだろうか。（3）

信教の自由は信仰を守る。信仰は、少なくともそのカクシ^cン部分は、理性による考察と判断を超えている。理性にもとづいて明らかに虚偽であるとか、社会全体に深刻な害悪をもたらすと判断されるものであれば、そうした信仰を守る必要はない。他方、理性によつては真偽が不明であり、社会全体に及ぼす効果も即断はできないという内容のものであれば、各人がそれにコミット^{注2}することには、各人の自律的な生き方を可能にするという価値は少なくともある。理性による考察や真偽の判断を超える信仰へのコミットメントである点が、表現の自由との違いということになりそうである。

ロンドン大学キングズ・コレッジの法哲学教授、ティモシー・マックレムは、⁶「信仰」と「信託・信認」の対比を通じて、この論点を検討している。

信託にも「信ずる」という要素はある。筆者もたまに投資信託を購入することがあるが、ファンド・マネージャーが適切に資金を運用して、多くの場合——少なくとも二分の一を超える確率で——資金を増やしてくれるだろうと信じて投資信託を購入する。投資信託を購入する人々の多くはそうであろう。ただ、信託に関して「信ずる」ことには、それなりの合理的理由がなければならぬ。それまでのファンドの運用実績や、資金が投入される市場の動向に照らして、資金を増やしてくれそうだという期待に、確実とは言えないまでも、相当の根拠があるという場合でなければ、あなたは投資信託を購入すべきではない。証券会社の従業員は、色とりどりのグラフや図表に満ち満ちたパンフレットで、相当の根拠はあつてあなたを納得させてくれるだろう。

人が金融機関に置くのは合理的理由にもとづく信認である。信仰ではない。「私はみずほ銀行を信認する」という発言は意味をなすが、「私はみずほ銀行を信仰する」と言われたら、人はそれをどう受け取るべきか、にわかには判断できない。オンラインの業務処理能力を含めて、みずほ銀行に金融業務を的確に処理する能力が十分にある場合に限って、みずほ銀行を信認することには理由がある。

これに対して、宗教が求めるのは信仰であって信認ではない。「あなたからお金を預かったら一年後に二倍にして返す」とか「〇〇すれば現金が受け取れる可能性がある」と信者に呼びかける宗教団体は、まずは疑ってかかった方がよいであろう。(4)

宗教は、少なくともそのカクシンにおいては、死後の生、復活の可能性等、理性にもとづく当否の判断が不可能な論点について、人々の信仰を求める。理性にもとづく判断をなし得ない以上、信仰の対象となる教義や主張自体に合理的理由はないと考えるべきであろう。それでもなお信仰することは、信者に何か積極的な便益を与えるであろうか。

まずは、さきほども述べたように、数ある信仰の中から一つを選びとり、コミットすることで、それなしでは可能ではなかった生き方を新たに切り拓くことができるという便益はある。マックレムは、人が別の町に転居するとき、新たな職場を選ぶとき、新たな配偶者と結婚生活を営もうとするときも、そこには信仰に近いものがあると言う。新たな生活が順調なものであるか否か、判断する根拠はほとんどないのだからというわけである。

とはいえ、こうした新生活へのコミットメントには、本来はそれを支える合理的理由があつてしかるべきである。その理由があるか否かを知るための十分な証拠が現時点では手許にないというだけである。転居を決断する前にその町を下見したり、就職する前に同じ大学を卒業した従業員に面会して職場の様子を訊いたり、結婚する前に探偵を雇って相手の行動を調査する人がいるのも、そのためであろう。(5)

これに対して、宗教に対する信仰は、「()」である。信仰を支える合理的理由はそもそももない。それでも信ずる。それが本来の信仰である。そうである以上、そうした生き方を可能にするという、ほとんどトートロジカルに導かれる価値以外には、信仰に積極的価値はないということになりそうである。そして、信仰によって可能となった新しい生き方が、善い生き方であるか否かは、本人がその生を実際に生きてみなければ分からないことである。

(長谷部恭男『神と自然と憲法と——憲法学の散歩道』による)

(注1) 拮抗＝力や勢力がほぼ等しく、互いに張り合うこと。

(注2) コミット＝かわり合うこと。関係すること。

(注3) トートロジカル＝同語反復的。

問1 傍線部 a、e のカタカナにあたる漢字と同じ漢字を含むものを、各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。

〔解答番号〕

1

5

a
コウケン

1

- ① ジッケンを握る。
- ② ブンケンを調べる。
- ③ ケンヤクに努める。
- ④ 二人はケンエンの仲だ。
- ⑤ ケンキョな態度をとる。

c
ヨクシ

3

- ① 声にヨクヨウがない。
- ② 緑のヨクヤが広がる。
- ③ ショクヨクがない。
- ④ ヨクシユウに延期する。
- ⑤ サヨクの政治家として知られる。

e
カクシン

5

- ① 敵をイカクする。
- ② チカクが変動する。
- ③ 組織のチュウカクとして活躍する。
- ④ カクセイの感がある。
- ⑤ ガイカク団体を整理する。

b
マネク

2

- ① 気温がジョウシヨウする。
- ② 一部をシヨウリヤクする。
- ③ 相手国とコウシヨウする。
- ④ シヨウジュンを合わせる。
- ⑤ オリンピックをシヨウチする。

d
コタえる

4

- ① 道路をオウダンする。
- ② 武術のオウギを極める。
- ③ 書類にオウインする。
- ④ 道路にオウトツがある。
- ⑤ 環境にテキオウする。

問2 傍線部1「信教の自由」について筆者はどのように考えていますか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。

〔解答番号 6〕

① 信教の自由は、社会の一体感を保持し、国民全体で協力しようとする環境を整える上でも重要であるがゆえに、政府は各宗教の活動を統制しなければならぬ。

② 信教の自由は、宗教が各人にとっての生きる意味や宇宙の意味を教えてくれる大切なものであるがゆえに、個人の自律的判断にすべて任せるべきである。

③ 信教の自由は、信仰する宗教が社会の良識に反するものでない限り、個人の尊重という点からも、また公共の利益という点からも保障されなければならない。

④ 信教の自由は、各宗教のいずれが優れているかを客観的に評価することができないゆえに保障されなければならない。政府が各宗教の内容に介入してはならない。

⑤ 信教の自由は、リベラル・デモクラシー諸国では広く認められているとはいえ、およそ良識に反するような宗教に対しては政府が監視の目を光らせるべきである。

問3 傍線部2「近代立憲主義を支える主要な思想の基盤の一つ」とありますが、何が「基盤の一つ」なのでしょうか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。〔解答番号 7〕

① 信教の自由

② 宗教

③ 社会公共の利益

④ 社会の一体感

⑤ 国全体の中長期的な将来

問4 傍線部X「往々にして」、Y「抜き差しならぬ」の言い換えとして最も適当なものを、各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。

〔解答番号 X Ⅱ

8

、Y Ⅱ

9

〕

X 「往々にして」

① たまたま

② しばしば

③ せいぜい

④ もともと

⑤ つねづね

Y 「抜き差しならぬ」

① 非の打ち所がない

② 間然する所がない

③ 似ても似つかない

④ およびもつかない

⑤ のつびきならない

問5 傍線部3「信教の自由を保障することに積極的な便益を見出すことはできないであろうか」とありますが、筆者はどのような「便益」を指摘して

ますか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。〔解答番号

10

〕

① 理性によっては真偽が不明であり、社会全体に及ぼす効果も即断できないような事態に対して、信仰に基づく正しい判断ができること

② 多様な信仰相互の拮抗がより善い信仰の発見につながり、その結果、政府の施策に対して信仰に基づく批判を展開できること

③ 死後の生、復活の可能性等、理性にもとづくその有り無しの判断が不可能な論点について、信仰に基づく理性的な判断が可能になること

④ 転居や就職や結婚などがそうであるように、信仰によって可能となった新しく善い生き方を選びとることができること

⑤ 一つの信仰を選び取り、それにコミットすることで、それなしでは可能でなかった生き方を新たに切り拓くことができること

問 6 傍線部 4 「因果関係」の「因」にあたるものとして最も適當なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。〔解答番号 11〕

- ① 表現の自由
- ② 積極的便益
- ③ 政府の施策
- ④ 政府による表現活動の統制
- ⑤ 社会全体の公益

問 7 傍線部 5 「そもそも（ ）によってその可能性が閉ざされている」の空欄（ ）に入る語句として最も適當なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。〔解答番号 12〕

- ① 信教の自由の保障
- ② 信仰の比較不能性
- ③ 社会公共の利益
- ④ 個別の表現活動の統制
- ⑤ 信教の自由の積極的便益

問8 傍線部6「『信仰』と『信託・信認』の対比」とありますが、マックレムが注目する両者の違いの説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。〔解答番号 13〕

- ① 「信託・信認」は合理的な根拠がある場合に「信ずる」ものであるが、「信仰」は合理的な根拠の有無にかかわらず「信ずる」ものである。
- ② 「信託・信認」は金銭の利得を目的として「信ずる」ものであるが、「信仰」は死後の生や復活の可能性等を目的として「信ずる」ものである。
- ③ 「信託・信認」は新生活へのコミットメントにおいて「信ずる」ものであるが、「信仰」は宗教へのコミットメントにおいて「信ずる」ものである。
- ④ 「信託・信認」は合理的な根拠に基づいて「信ずる」ものであるが、「信仰」は合理的な根拠がないにもかかわらず「信ずる」ものである。
- ⑤ 「信託・信認」はグラフや図表といった相当の根拠に納得して「信ずる」ものであるが、「信仰」は根拠が曖昧なままに「信ずる」ものである。

問9 傍線部7「宗教に対する信仰は、() ()である」の空欄()に入る語句として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。〔解答番号 14〕

- ① 自由への憧憬
- ② 暗闇への跳躍
- ③ 現状に対する諦念
- ④ 現世に対する絶望
- ⑤ 理性に対する不信

問10 本文から次の文が抜け落ちています。どこに戻すのが最も適当ですか。後群の①～⑤のうちから一つ選びなさい。〔解答番号 15〕

合理的な根拠はありそうもない。

- ① (1)
- ② (2)
- ③ (3)
- ④ (4)
- ⑤ (5)

問11 本文の内容と合致しないものを、次の①～⑥のうちからすべて選びなさい。〔解答番号 16 の解答マーク欄に、解答をすべてマークしなさい。〕

- ① 信教の自由には表現の自由や結社の自由ではカバーできない、独自の積極的な便益があり、保障するべきである。
- ② 人々が投資信託を購入するのはファンドの運用実績などに関する、それなりの合理的理由があるからである。
- ③ 宗教は理性による真偽の判断を超えているがゆえに、それへのコミットメントは慎重でなければならぬ。
- ④ 政府が各宗教の内容に立ち入り、その善し悪しを評価することになれば、社会の分断を引き起こしかねない。
- ⑤ 転居や就職や結婚などの新生活へのコミットメントには、それを支える合理的な理由があるものである。
- ⑥ 数ある信仰の中で、どれが尊重に値し、どれが値しないかは、結局のところ個人の判断に任せるしかない。

第2問 次の文章を読んで、後の問い（問1～問11）に答えなさい。

人間にとって、リズムというもののほど広く感じとられる現象は少ないのではないだろうか。文明が違っても、年齢や性別や個性が違っても、「リズム」と聞いて、それなりのイメージを抱けない人はいないはずである。リズムという言葉を知らない人でさえ、歩くときにはリズムカルに歩いているし、そのことを指摘されればただちに意味を理解するにちがいない。舞踊^aや音楽に詳しくない人でも、それを見たり聞いたりすると何かがからだの内部で弾む^bのを感じ、それがリズムだと教えられればただちに快く納得するだろう。

そして人がリズムと聞いて思い浮かべる現象は、見渡せば世界のすみずみにまで満ち満ちている。水面に石を落とせば輪のような波がリズムカルに広がるし、時計の振り子も弾力的に反復する音を立てる。身体そのものも不随意的にリズムを刻んでおり、心拍や呼吸などの場合はそのリズムを随意的に大きくすることもできる。天空を仰げば月は盈ち虧^かけを繰り返して、注意深く観察すれば、星の運動も脈動する秩序を感じさせる。

このリズムの感受性は人類の地域も歴史も超えて、いわゆる文明化の程度と関係なく共有されている。（イ）文字も持たない先史的な文明のほうが、リズムの感受性を高度に発達させているといえるかもしれない。太鼓の多様な拍節で信号を送り、縄の結び目の長短によって意味を伝えた先史人は、近代人より繊細なリズムの感覚を持っていたと想像される。宗教儀式や社交の娯楽を見ても、近代人よりも前近代的な部族のほうが、舞踊のリズムをより重要視しているようにみえる。

同じことは個人の成長段階についてもあてはまるようであって、リズムは成人にも、言葉や文字を知らない幼児にも共通して理解される。泣いている乳児を一定のリズムで揺ると笑いをとり戻すし、別のリズムで揺ると静かに寝入ることが知られている。成人も行進曲のリズムに活力を鼓舞^cされ、電車の断続的な振動によって居眠りを誘われる。（ロ）リズムは人の生涯を貫く共通語であるのは疑いない。

¹リズムが共通語であるといえ、これは異なった共同体や文化のあいだでも互いを繋ぐ強い力を備えている。初めて接する異文化のリズムであっても、それがリズムだということはただちに感じとることができる。文化は人の身についた慣習だから、それを異文化人が再現するのは容易ではないが、本気で努力さえすれば不可能ではない。ヒップ・ホップというのはアフリカ由来のリズムだが、アメリカの黒人^甲をなかだちにして、今では世界中に愛好者が広がっている。

リズムはまた人間の感覚器官の違いをも超えていて、俗に五感と呼ばれるすべての感覚を通じて享受することができる。耳は音のリズムを聞き、目は点や線、さらに色彩の対比のあいだにリズムを感じとる。皮膚も触覚のリズムカルな刺激を感じわけるし、心臓の鼓動のように、いわば内臓の触覚が直接に受容するリズムもある。何よりも全身の筋肉と骨格はリズムに敏感であって、多くの日常活動のリズムカルにおこなうことができるうえ、純粋にリズムを満喫するための運動、ほかならぬ²（ ）に没頭することもできる。

このことを裏返していえば、リズムを受けとる特定の感覚器官、感性の種類はどこにも存在しないということになる。断定するのは早すぎるが、あえていえばリズムを受けとるのはこれまで知られたどの感覚でもなく、まったく未知の新しい中枢^dだと考えるほかはなさそうである。(ハ)現代の脳科学や生理学によっても、リズムの中枢と呼ぶべき脳の部位や反射中枢は見つかっていないから、とりあえずここでは未知の新しい中枢と名づけておくしかないだろう。もっと正確を期すなら中枢があるという推定も棚上げ^乙して、身体をあらたに定義しなおしたうえで、リズムを感受するのは身体の全体だと考えておくべきかもしれない。

(ニ) ギターやピアノなど楽器を弾く人が、からだのどこでリズムを感じているかを想像してみるがよい。当然、演奏者は指でリズムを奏でるわけだが、それが良いリズムを生んでいるかどうかを判断するのは、その人の指ではなく耳だろう。(ホ)リズムは指にあるのか耳にあるのか、その両方にあるのだろうか。もちろん両方にあると言うのがいちばん簡単そうだが、少し考えてみれば両方は両方といえないほど融合して別のものになっている。そのうえ指は腕や肩はもとより腰や足にいたる全身に支えられているし、耳もまた「脳天に響く」とか「腹に響く」という比喩が示すように、全身で音を聞いている。どう考えても、全身のなかでリズムが存在する場所を局限するのは難しそうである。

いわゆる視覚的なリズム、空間的なリズムというものに目を転じると、このことは一層よく理解できる。点と線のつながり、色彩を帯びた面の配置は視覚を通じて受容されるが、物理的には動かないそれらの形態がそのままリズムを生むはずはない。思いだすべきは、日本庭園の飛び石がリズムミカルに見えるのは、人がそのうえを跳んで歩くからだという事実である。かたちが流れや弾みを感じさせるのは、第一には見る人がそのかたちをなぞって眼球を動かし、第二にはそれを描いた画家の運動を自分の体内で追体験するからだろう。かたちを見てリズムを感じる人はみずからもひそかに身体を動かし、その運動感覚のリズムを味わっていると見るほかはない。

俗にいう視覚的リズムは、じつは視覚と運動感覚のまさに中間にあるといえそうだが、このことは造形のなかでもとくに書道(calligraphy)、文字を美しく書く藝術^{けいじゆつ}においてはつきりと見てとれる。この場合にはリズムの感受能力には感覚だけでなく知識も加わり、筆法や筆順、文字の並びの方向を知っていることが鑑賞の前提になる。漢字やかな文字がとくに典型的だが、ローマ字やアラビア文字においても、文字のリズムを味わうには見る人が心のなかで書いてみる^eことが必須である。ここまでくると、リズム感受の中枢はたんに諸感覚の中間にあるというのみならず、知識をも含めた人間の総合能力のなかにあるという事実が、予想され始めるのである。

個人の内部で在りかを局限できないリズムはまた、複数の個人の集団のなかでも均等に遍在している。舞踊家はほとんどつねに音楽の演奏家と共演するが、音は演奏家、跳躍や旋回は舞踊家の側にあるのにたいして、リズムはその中間にあるとしかいえない。演奏家がリズムをリードして舞踊家が従うとか、その逆が起こつたりしたときに、上演が成功することはありえない。⁷ (ニ) ように、リズムは演奏家と舞踊家双方の頭上に舞って、両者の協調と競争に煽^{あお}られながら、リズムそのものの力によって緊張と昂揚^{かうよう}を増すのである。

問1 傍線部 a～e の漢字の読みが間違っているものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。〔解答番号 17〕

- ① a 「舞踊」 ㍽ぶよう ② b 「弾」 ㍽はず ③ c 「鼓舞」 ㍽こぶ
④ d 「中枢」 ㍽ちゅうすう ⑤ e 「必須」 ㍽ひつしゅう

問2 空欄（イ）～（ホ）を補うのに最も適当な語を、次の①～⑥のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。（同じものを二度以上選んではいけません。）〔解答番号 イ ㍽18、ロ ㍽19、ハ ㍽20、ニ ㍽21、ホ ㍽22〕

- ① もつとも ② いったい ③ かし ④ むしろ ⑤ たとえば ⑥ とにかく

問3 傍線部1「リズムが共通語である」とはどういうことですか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。〔解答番号 23〕

- ① リズムは舞踊や音楽に限らず、すべての現象に存在するということ
② リズムは意思の伝達手段として言葉や文字の代わりになるということ
③ リズムはたとえ異文化のリズムであってもその習得は容易だということ
④ リズムに対する感受性はあらゆる人類に共有されているということ
⑤ リズムという言葉は今や世界中で通じる言葉になっているということ

問 4 傍線部甲「なかだち」、乙「棚上げ」の言い換えとして最も適当なものを、各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。

〔解答番号 甲Ⅱ 24、乙Ⅱ 25〕

- 甲 ① 先達 ② 媒介 ③ 中心 ④ 模範 ⑤ 契機
乙 ① 勘案 ② 否定 ③ 容認 ④ 検証 ⑤ 保留

問 5 傍線部2「ほかならぬ（ ）に没頭することもある」の空欄（ ）を補う語として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。〔解答番号 26〕

- ① 舞踏 ② 音楽 ③ 娯楽 ④ 振動 ⑤ 感覚

問 6 傍線部3「このことを裏返していえば」とありますが、このような説明の仕方を何といいますか。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。〔解答番号 27〕

- ① 敷衍的 ② 反語的 ③ 逆説的 ④ 婉曲的 ⑤ 循環的

問 7 傍線部4「それ」が指している言葉として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。〔解答番号 28〕

- ① 楽器 ② からだ ③ リズム ④ 演奏者 ⑤ 指

問8 傍線部5「両方は両方といえないほど融合して別のものになっている」と同じ事態を説明したものとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちか

ら一つ選びなさい。〔解答番号 29〕

- ① 演奏者はリズムを指や耳といった身体の一部ではなく、その全体で感受しているということ
- ② 演奏者はリズムを指で奏でているのか、耳で享受しているのか判断がつかないということ
- ③ 演奏者が感受するリズムは、指や耳が感受するリズムとは別のものに变化しているということ
- ④ 演奏者の身体は自分が奏でるリズムと一体となって、リズムカルに動いているということ
- ⑤ 演奏者はよいリズムを生んでいるのかどうかかわからないほど、演奏に夢中になっているということ

問9 傍線部6「視覚的なリズム」について説明した次の文の空欄A～Dを補う語句の組み合わせとして最も適当なものを、後群の①～⑤の

うちから一つ選びなさい。〔解答番号 30〕

視覚的リズムはAを見てでもわかるように、Bと密接にかかわっているが、Cを考え合わせるとDも視野に入れなければならないことがわかる。

- | | | | | |
|---|------------|--------|----------|------------|
| ① | A 日本庭園の飛び石 | B かたち | C 文字のリズム | D リズム感受の中核 |
| ② | A 日本庭園の飛び石 | B 運動感覚 | C 文字のリズム | D 知的な能力 |
| ③ | A 日本庭園の飛び石 | B 運動感覚 | C 書道 | D 知的な能力 |
| ④ | A 画家の運動 | B かたち | C 文字のリズム | D リズム感受の中核 |
| ⑤ | A 画家の運動 | B 運動感覚 | C 書道 | D 知的な能力 |

問10 傍線部7「() ように」の空欄に入る比喩表現として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。〔解答番号

31

- ① 泣き止まない赤子を母親が抱き上げてあやす
- ② 大地を揺るがす雷鳴と大空を切り裂く稲妻の
- ③ ピッチャーの投げた速球をバッターが空振りする
- ④ 急流を流れ下る屋形船を二人の船頭が巧みに操る
- ⑤ 二人の競技者がトスを上げあうバレーボールの

問11 本文はリズムのどのような面に焦点が当てられていますか。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。〔解答番号

32

- ① リズムの慣習性と空間性
- ② リズムの普遍性と遍在性
- ③ リズムの感受性と運動性
- ④ リズムの歴史性と空間性
- ⑤ リズムの空間性と遍在性